

暮らしの安全・安心対策特別委員会記録

- 1 期 日 平成21年2月17日(火)
- 2 場 所 第1委員会室
- 3 出席委員 委員長 浅野洋二
副委員長 大井哲郎
委員 蔵本 健、井原 修、高木昭夫、沖井 純、河井案里、
高橋雅洋、小林秀矩、山崎正博、大曾根哲夫
- 4 欠席委員 なし
- 5 出席説明員
[危機管理監]
危機管理監、危機管理課長、消防保安課長
[健康福祉局]
健康福祉局長、総務管理部長、健康福祉総務課長、保健医療部長、医療政策課長、生活衛生課長
[農林水産局]
農業技術課長、水産課長、農林整備部長、技術総括監
[土木局]
土木局長、技監、技術企画課長、土木整備部長、土木整備管理課長、道路企画課長、道路整備課長、河川課長、砂防課長、空港港湾部長、港湾技術総括監(兼)港湾管理課長、港湾企画整備課長、都市技術総括監、建築課長
[企業局長]
企業局長、水道課長
- 6 報告事項
 - (1) 広島県防災対策基本条例案について
 - (2) 災害派遣医療チーム(DMAT)体制整備事業について
 - (3) 道路立体交差アンダーパス部における冠水対策について
 - (4) 広島県橋梁長寿命化修繕計画について(中間報告)
 - (5) 送水トンネルの点検の実施について
- 7 会議の概要
 - (1) 開会 午後1時32分
 - (2) 記録署名委員の指名
 - (3) 質疑・応答
○質疑(高橋委員) 道路立体交差アンダーパスについてお伺いをいたします。先ほど説明がありましたように、広島県の管理する道路における立体交差アンダーパスは、8カ所ということで理解していいのでしょうか。といたしますのが、国の管理する道路、また市町の管理する道路もあると思うのですが、私が把握しているのは、このアン

ダーパスの対策を行わなければいけない箇所が県内で 57 カ所ぐらいあると思うのですけれども、そのことについてお伺いをいたします。

○答弁（道路整備課長） 広島県の管理する道路で、いわゆるアンダーパスというところは 50 カ所ぐらいございますが、その中で、先ほど申しましたように、道路縦断が低くなって冠水のおそれがあるというところは、現地を調査しまして、8 カ所と考えております。県内すべての数字につきましては、先般中国地方整備局の方から公表されておりますが、広島県内全部で政令市を除いて 38 カ所で、うち直轄国道が 1 カ所、市町村道が 29 カ所、あと残りが県道 8 カ所、合計で 38 カ所と聞いております。ちなみに広島市域の中に 19 カ所ございます。これを足しますと 57 カ所ということで、そちらの数字だと思います。

○質疑（高橋委員） ということは、とりあえずではなく、今説明があったように、この 8 カ所だけを実質には対策をしたという理解でいいのですか。

○答弁（道路整備課長） 先ほど御説明しましたように、今年度内に発注して、梅雨までにはすべて完成させます。具体的には今週中にすべて発注が終わる予定であると確認しております。

○質疑（高橋委員） ぜひとも行っていただきたいと思いますが、そのほかの 30 カ所についてはどういう対応をされるのですか。

○答弁（道路整備課長） 30 カ所のうち 1 カ所は直轄国道で、そちらの方は各道路管理者でやる内容はまちまちでございますが、大分整備をされると伺っております。残り 29 カ所は市町が管理する道路でございますが、これにつきましては、市町に対して県の方からこういうことをしますという情報を提供して、安全に努めてくださいという投げかけはいたしますが、具体的にどこの市町が何をなさるかということは現在把握しておりません。

○質疑（高橋委員） 市町についてもやはり財政的な問題もあると思いますので、それは県としても検討をしていただきたいと思います。そこで、違う観点から質問をしますが、この 8 カ所を見てもやはり基本的に問題となるのは J R が絡んでいることです。それで、先ほど言われましたように、豪雨が降ったりして、栃木県の方では人が亡くなったり、広島市安芸区でも事故があったということで、初動体制のフォローをするということなのですが、基本的には J R があるとなかなか難しいと思うので、アンダーパスではない方法を少しでもとれないかと思います。

というのが、例えばこれは私の記憶ですが、広島市の大州にもアンダーパスがあったと思うのです。海田広島線ですか、旧国道 2 号で、今、新球場の横のあたりだと思うのですが、あれはたしか埋めてきれいに真っすぐになったのです。アンダーパスの問題は、ただ雨が降って大変危険だったら交通規制なりで安全を図るというのもいいのですが、もう一方の観点からいくと迂回路をつくるとか、極端に言うとも線路をまたいで橋をつくるとか、そういうことも考えていかなければ、なかなか今後の事故防止の対策についてもちょっと疑問を持たざるを得ないのですが、その辺についてのお考

えをお聞きしたいと思います。

○答弁（道路整備課長） 御指摘の件でございますが、冠水対策という意味では、橋はオーバーする方がよろしいのですが、道路近辺の状況によりまして、上を通ったり、下を通ったりしているのが現状で、今のアンダーをそのまますぐにオーバーにするような計画は今持っておりません。それと迂回路があればいいということなのですが、その辺も今回のアンダーパス部分につきましては、迂回路をあらかじめ設定しまして、通行どめをした場合は、そちらの方へ迂回していただくという処置で対応したいと考えております。

○要望（高橋委員） 市町のこともありますし、県内で57カ所もあるということなので、それがすべてJRや線路に関してではないと思いますけれども、ぜひともそういう指導もしていただきたいと思います。もちろん市町に対しても予算的な措置も検討していただきたいと思いますし、最近の異常気象もありますし、何が起こるかわからないということもあります。そして現実には、最近事故・事件が起きているということもあります。やはり最初からいろいろな問題があってアンダーパスになったとは思いますが、その辺も今後道路整備をしていく上で、基本的にはアンダーパスを取り入れることはなるべくしないようにすると思うのですが、そういう箇所が少なくなるように、今後も検討していただきたいと思いますし、特にフォロー体制ということでしっかりと連携がとれるようになっていますが、実施するとなると急だったり、慌てたりすることもあると思うので、その辺の連携もしっかりしていただいて、広島県で事故や事件が起きないように、よろしく対応をお願いしたいと思います。

○質疑（大曾根委員） 広島県の管理するアンダーパスはここに書かれているとおりなのですが、県民の安全を確保するということからすれば、県が管理する道路だけではなく、県内こういうところが57カ所あるというリストを出した上で、やはり県民は全部そこを利用するわけですから、管理する立場ではなくて利用する立場でそういう資料を出してほしいと思いますが、いかがですか。

○答弁（道路整備課長） 57カ所のリストにつきましては、全箇所公表するというようにしております。市町の方にも配布しておりますので、市町の方はそちらの方へ行っていただければ確認できると思います。

○要望（大曾根委員） せっかくですからこういう場に出してほしいということと、市町が云々ではなくて、市町の人も県内あちこち全部車で動き回るわけですから、やはり県民にすべてを明らかにしてほしいという要望です。

○答弁（道路整備課長） リストの方は整い次第お配りしますので、よろしく申し上げます。

○質疑（小林委員） 4点ほど伺います。

まず第1点は、防災対策基本条例案の中で、防災の日が6月29日ということですが、例えばイベントなどがあれば教えていただきたいと思います。

○答弁（危機管理課長） 防災の日につきましては、ちょうど同じ時期が土砂災害防止月

間ということで、国の方が各種事業を展開しておりますが、そちらとも連携をして、毎年、県民の防災の指導といった取り組みを行っておりますし、こういった土砂災害防止月間の取り組みと連携した取り組みでございますとか、先ほど今後の取り組みということで御説明の中にもありましたが、フォーラムの開催でございますとか、そういった取り組みを実施することによって普及啓発を行い、防災対策の促進に努めていきたいと考えております。

○要望・質疑（小林委員） いい条例案だと思いますので、ぜひとも頑張ってくださいと思います。

続いて、先ほどのアンダーパスの問題と同じ質問内容であります。橋梁のアセットマネジメントについては県の管理する橋梁だけになっております。市町がどのような状況であるかという資料はお持ちですか。

○答弁（道路整備課長） 市町のこれに対する状況でございますが、12月現在で調べたデータがございます。それによりますと、橋梁点検を行っているのが、広島市を除いた22市町のうち平成19年度までに8市町、20年度で6市町、合計14市町が完了することとなっております。未定というのが1町ございますが、後はすべて22年度までに点検に着手するという状況でございます。さらに、長寿命化修繕計画につきましては、ことし一つ、東広島市が作成するというので、そのほかはすべて今後25年度までに着手する計画と伺っております。

○要望・質疑（小林委員） やはり一体的な県路の管理ということで、均衡ある、きちんとした整備計画の中で一緒になって進めていくべきものであろうと思いますので、ぜひともリーダーシップをとっていただいて、早期に計画決定をされるよう要望しておきます。

それと、DMATであります。本県では12施設15チームということになっております。最近の医師不足、看護師不足という状況の中で、本当に15チームが機能するかどうか、その辺をちょっとお聞かせ願いたいと思います。

○答弁（医療政策課長） このDMATでございますが、先ほど申し上げましたように、一応5名という体制が整っているということが当然の要件でございますし、専門的な訓練を受けたということでございますので、基本的には現在ございます15チームにつきましては発動できる体制は人的にも整っていると理解しております。

○要望・質疑（小林委員） 9,400万円余の予算を組んでおりますけれども、通常業務が阻害されないような状況でチーム編成を行っていただきたい。それが本当にできるかどうかというのを点検しながら、補充しなくてはならないような状況であるのであれば、ことしから県立病院も医師の派遣ということもうたっておりますので、よくよく、その辺も考えていただいて、一般診療に対して支障のないようによくお願いしておきたいと思います。

あと、農林政策について聞きたいのですが、ため池が県内2万個以上あると思っておりますけれども、未整備の状態で、老朽化が進んでおります。特に、農地と住宅の混在し

たところがどうしても放置されやすい。河川とは違って、ため池というのは修繕するときにどうしても受益者負担が伴いますので、その辺でどうしても老朽ため池についてなかなか着手できないという現状と、財政状況も悪い中でありましてけれども、もっとやっていかないと、大変なことになるのではないかと思います。集中豪雨で決壊すれば、家屋敷や田畑や財産に相当な被害が出てきますので、その辺の老朽ため池の整備についてどういう方針、計画があるのか、お聞かせ願いたいと思います。

○答弁（技術総括監） 現在、農林水産省で行動計画に基づいてため池整備をやっておりますが、補助事業と、単県事業の2つで実施しております。それで今回、安心・安全の面で、一応今、市街地などで農地が減少しているところの危険ため池については、雇用対策的なもので対応するという事で2億円ほど計上させていただいております。

それと、現在、ため池整備につきましては、予算的なものもございまして本数的に少ないのですが、できるだけ採択していきたいと思っております。

○要望（小林委員） こういう気象状況でありますので、優先順位をつけて、やはり早く直すべきところは直すということで、ぜひともスピードを上げてやっていただきたい。受益者負担ということも必要だけれども、その代替措置ができないか、その辺の制度設計もあわせて考えてもらって、早くできるような方法をとっていただくように要望をしておきます。

○質疑（大曾根委員） アセットマネジメントで橋梁を長寿命化する修繕計画ということですが、県庁の建物について、皆さん、ぼろは着ても心は錦ということで、一生懸命頑張っておられるのですが、北館から向こうを見ますと、外壁がぼろぼろになったり、県議会の建物もそうですけれども、美観的に見てももうかなり傷んでいるところが多い。危機管理監、耐震性は大丈夫なのですか。私は耐震性だけで判断してはいけないと思うのです。地震には強いけれども、やはり県庁の建物も今手を入れたらもっと長もちするという発想でもう一回チェックして、お金はないけれども、やらないといけないことはやるという考え方をしなくてはいけないと思うのですが、いかがですか。

○答弁（危機管理監） 私の所掌かどうか定かではないのですが、私が聞いているところでは、特に私どもがおります北館は県庁の中でも一番安全なところということで、危機管理センターを設置させていただき、さらに、我々県職員も危ないところで執務しているわけではなくて、一定の基準は満たしているということ、それと、立派な施設で仕事をするにこしたことはないのですけれども、要は中身だと思っておりますので、美観も金がかからないようによくしつつ、仕事の中身で勝負したいと思っております。

○要望（大曾根委員） さすが危機管理監です。突然の質問に対してもそれなりにきちんと答えていただいてありがとうございます。

もう一つ要望なのですけれども、例えば、アンダーパスの資料の裏側の図面を見てください。私も先日白内障の手術をしてよく見えるようになったとは思っているの

すが、「冠水」という字とか、「電光式冠水表示板」の下の、これはもう目を凝らして見ないと読めません。これもコスト低減で、きっとカラー印刷した分をそのまま利用されていると思うのですが、やはり見てもらうという立場からすれば、ちょっと手間がかかるかもしれないけれども、見やすく作りかえて出してほしいと思います。

それからもう一つ要望です。災害派遣医療チームの「DMAT」は「ディーマット」と読むのですね。私も同じ災害派遣医療チームの岡山県の「AMDA」の勉強をいろいろさせてもらったことがあるのですが、これも「アムダ」とはなかなか読みにくいのです。先ほど小林委員は「デマット」という発音をしたので、どちらが正しいのかと思いながら質問を聞いたのですが、やはり仮名を振ると、「DMAT」と一般的に使っていくのだったら、「ディーマット」と呼んでもらう方がいいと思うのです。国会答弁でいろいろ間違える人もいますけれども、せつかくの資料ですから、仮名を振るという親切心も欲しいと思うのです。あれこれと随分要望しましたが、以上です。

(4) 閉会 午後2時21分